

2026年度 外国人留学生

【人間開発学部】

## 小論文試験

解答例（解答のポイント）

※公開する解答例には、別解がある場合があります。

（解答例）

筆者は、社会学の存在意義を「再帰的思考」にあると述べている。再帰的思考とは、社会が自分に与える影響と、自分が社会に与える影響の両方を考えることであり、「社会と自分の行為との関係」に気づき、それを客観視・相対化するための思考である。価値観が多様化し、社会のあり方が変化し続ける現代において、個人が自身の行動の意味や立ち位置を理解するには、このような思考が不可欠である。筆者は、社会学を学ぶことによって、この再帰的思考が可能となり、近代社会を生き抜く力になると主張している。

たとえば、学校において友人関係に悩む生徒がいたとする。その原因を自分の性格や行動のみに求めるのではなく、クラスの文化や暗黙のルール、所属集団の力関係といった社会的な背景から考えることで、新たな視点が得られる。これはまさに「行為と社会の相互影響関係」に着目する社会的な見方であり、問題をより深く理解し、より適切な対応を導くうえで役立つ。

また、職場においても、上司と部下の関係性、働き方の慣習、性別による役割分担の固定化など、個人の行動は多くの社会的文脈に規定されている。社会学の視点を持つと、表面的な対人トラブルの背後にある組織構造や制度のあり方に気づき、個人の問題を社会の問題として捉え直すことができる。さらに、SNS上での行動も、他者からの評価を求める傾向や、特定の価値観が優先される風潮など、社会的圧力の中で形作られている。こうした現象を分析するうえでも、社会学は有効な手がかりとなる。このように、社会学は現代社会において、自分自身と社会の関係を問い直し、より良

い生き方や社会のあり方を考えるうえで重要な学問である。単に知識を得るだけでなく、自らの 経験を社会的に捉え直す力を養うという点で、社会学の意義は今後ますます大きくなると考える。